

1. 単元名 「介護技術の実際」

2. 単元設定の理由

- 介護とは、日常生活を送るうえで様々な支障のある人に対して、人としての尊厳を守りその人らしい生活の自立を目指した支援行為である。そのために、介護技術の実践においては、要介護者の安全性、快適さや残存機能の活用が重要事項となる。しかし、介護の対象者は、現在の高齢者や障がい者だけではなく、人間誰もが、加齢により、病気を発症し、障がい者となる可能性があり、現在ではなくても将来的に自分や家族が介護を必要とする人になることは特別なことではない。介護を学ぶときは、介護技術を高度な専門的領域ととらえるのではなく、将来のライフサイクルと密着させて取り組む姿勢が大事である。

本単元では、これまでに学習した、介護の理念や高齢者および障害者の心身の特徴を基に、基本的な介護技術を習得させることをねらいとしている。また、全ての介護技術が、生活行為につながっていることに気付かせ、介護を自分の将来と結びつけてとらえさせることを目指している。さらに、介護は、人が人にはたらしかける行為でもある。そのため、コミュニケーションの取り方も重要な要素となる。この単元の学習は、常に人とコミュニケーションをとりながら行う形式であるため、人とコミュニケーションをとるための基本的態度も身に付けることができる。この単元を学習することにより、介護技術の習得だけではなく、自分の生活行為をふりかえりながら、人間関係を形成するコミュニケーションの大切さに気付くことができるという理由から、本単元を設定した。

- 本学級の生徒は、保育系、福祉系の上級学校に進学希望をもつ生徒が多いため、学習への取組に対して意欲的である。2学年から基礎的な介護の知識を学び、3学年では、社会人講師により基本的な介護技術を体験している。講義形式の学習形態よりも、体を動かして活動する取組を好む生徒が多いため、3学年の学習の方が意欲的である。しかし、老人福祉施設等での十分な実習経験もなく、高齢者や障がい者を身近に感じられない生徒も多い。

1学期実施のアンケート調査によると、将来の希望職種では、保育系が全体の進学希望者のなかで80%と高い。一方、福祉系を希望している生徒は全体の進学希望者のなかで11%である。「この科目に興味や関心をもって授業に取り組んでいるか」の問いに対しては、「当てはまる」および「やや当てはまる」と答えた生徒が92%であった。また、「技術や技能はきちんと身に付いているか」の問いに対しても、「当てはまる」および「やや当てはまる」と答えた生徒が97%と、実技の授業に対する関心の高さがわかる。しかし、一方では、集中力が続かない生徒も数名おり、机間指導において個別に指導が必要な場合もある。

- 介護に関する基本的な知識をふりかえり、既習の技術を応用させることをねらいとしている。そのためには、介護技術のデモンストレーションでは、一方的な説明だけではなく、生徒に質問し、発表させる機会を多く設ける。また、チェックリストを用い、項目にそって実技がスムーズにできるようにしておく。そのチェックリストにより、介護技術だけではなく、声かけ等のコミュニケーションが習慣化できるようにする。

1回の授業内容の説明では理解できずに、既に説明した内容を授業中に繰り返し聞いてくる生徒がいる。生徒の集中力を高めるために、授業内容の確認は準備物の確認終了後の落ち着いた環境で行うことが重要であり、実技の時間配分も一つ一つの技術ごとに区切り、生徒が見通しをつけて主体的に活動できるように指導する。

3. 目標

○介護技術は、要介護者にとって安全で安楽であること、ボディメカニクスに合致した方法であること、要介護者の自立生活を目指すものであることを理解する。

○人間関係を形成するコミュニケーションの大切さに気付き、介護者が要介護者とコミュニケーションをとるための基本的態度を身に付ける。

4. 指導計画

(全31時間)

1回	コミュニケーションと観察の意義と目的	1時間	講義	
2・3回	コミュニケーションと観察の留意点	2時間	実技	
4・5回	環境の整え方	2時間	実技	
6回	運動・移動の介護の意義と目的	1時間	講義	
7・8回	運動・移動の介護の留意点	2時間	実技	
9回	食事介護の意義と目的	2時間	講義	
10・11回	食事介護の留意点	5時間	実技	(1/5時間)
12回	清潔の意義と目的	1時間	講義	
13・14回	清潔の留意点	2時間	実技	
15回	排泄介護の意義と目的	1時間	講義	
16・17回	排泄介護の留意点	2時間	実技	
18回	移動の技術	1時間	講義	
19・20回	移動の技術	2時間	実技	
21・22回	着脱の技術	5時間	実技	
23・24回	福祉用具の活用	2時間	実技	

5. 本時の指導観

○要介護者にとって毎日の生活は、私たちの生活と同じものである。そこで、日常生活で行っている自分自身の歯みがきやうがいといった生活行為を振り返らせ、関心をもたせることにより介護の意義と目的や、介護上の留意点を理解させるようにする。

○実技では、チェックリストに基づき、介護者、要介護者、の2役を体験させる。そのことにより、介護者と要介護者の心情を理解したうえでの適切な介護について理解させる。

○実技のチェックリストにコミュニケーション要領を盛りこむことにより、介護者と要介護者の基本的なコミュニケーションの取り方を身に付けられるようにする。

○片麻痺の要介護者を想定して実技を行うことにより、残存機能の活用を考慮した適切な介護を選択できるようにする。

○実技に入る前に、身だしなみの確認(適切な服装であるか、爪をきれいに削っているか等)を行うことにより、介護が対人援助サービスの一つであることに気付かせ、エチケットを習慣化させられるように計画した。

6. 本時の目標

○実技をとおして、介護者に必要とされる基本的な身だしなみやコミュニケーションの取り方を身に付ける。

【関心・意欲・態度】

○要介護者の状態を把握させ、その状況に応じた口腔の清潔方法を選択できるようになる。 【技能・表現】

7. 教材・教具

生徒：教科書(基礎介護 中央法規出版)

副教材(五訂介護福祉士国家試験 実技試験のチェックポイント 中央法規出版)

ワークシート、セロテープ

教師：教科書(基礎介護 中央法規出版)

副教材(五訂介護福祉士国家試験 実技試験のチェックポイント 中央法規出版)

必要物品：クラッカー、キッチンペーパー、歯ブラシ類、手鏡、タオル(2枚) 紙コップ

8. 過程

(公開授業は2時間連続実習の2時間目)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 ・前時の学習内容の確認 ・本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容（食事介護の種類や方法）を想起する ・前時の学習内容から本時の学習につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の食事介護の他に援助が必要な介護について発表させる 	副教材	5分	一斉	(1)
展開	1. 口腔の清潔について <ol style="list-style-type: none"> 1) 口腔の機能 <ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼 ・嚥下 ・発音 2) 口腔を清潔に保つ意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の機能の説明を聞き、ワークシートに記入する ・口腔を清潔にする方法を発表する ・口腔を清潔にする道具をワークシートに記入する ・口腔を清潔にする必要性について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔を清潔にするために用いる道具の実物を見せる ・高齢者の身体的特徴を思い出させ、口腔を清潔にする必要性について考えさせる ・食事の介護は、食事そのものだけでなく、口腔の清潔と一緒に行う必要があることに気付かせる 	教科書 ワークシート	15分	一斉	
	2. 正しい口腔の清潔方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手順確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 必要物品 ①クラッカー ②キッチンペーパー ③歯ブラシ類 ④手鏡 ⑤タオル ⑥紙コップ </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順の説明を聞き、ワークシートに記入する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 手順 ①クラッカーを咀嚼する ②歯ブラシを用い、上の歯から下の歯の順番に磨く ③うがいをする ④手鏡で口腔内をチェックする </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を板書を用いながら説明する 		30分		
	<ol style="list-style-type: none"> 2) 必要物品の配布 3) デモンストレーション 4) 実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要物品を確認する ・デモンストレーションを見て、手順を確認する ・それぞれ個人単位で口腔の清潔を行う ・実技が終了後、ワークシートに気付いたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要物品を配布する ・デモンストレーションを行い、質問に答える ・机間指導で安全確認を行い、質問に答える 	必要物品		個人	(1)

展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
展開	<p>3. 食事介護における要介護者の状態把握及び適切な介護</p> <p>1) 事例：片麻痺の場合の状態把握</p> <p>2) 手順確認</p>	<p>手順</p> <p>①患側の口もとにセロテープをはる（片麻痺を想定する）</p> <p>②クラッカーを咀嚼する</p> <p>③介護者は、要介護者の口腔内を2)の手順通りに歯ブラシで磨く</p> <p>③うがいをする</p> <p>④手鏡で口腔内をチェックする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 介護の目的を想起させ、安全・安楽な介護の重要性や自立を支援する介護について再認識させる 既習事項を応用するように声かけをする 	セロテープ	40分	一斉	(1)
	<p>3) デモンストレーション</p> <p>4) 実技</p> <p>①患側の口もとにセロテープをはる</p> <p>②クラッカーを咀嚼する</p> <p>③介護者は、要介護者の口腔内を歯ブラシで磨く</p> <p>③うがいをする</p> <p>④手鏡で口腔内をチェックする</p>	<ul style="list-style-type: none"> デモンストレーションを見て、手順を確認する 2人1組になり、実技を行う 介護者は介護しやすい位置に移動する 実技が終了後、ワークシートに気付いたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> デモンストレーションを行い、質問に答える 班分けを説明し、指示をする 机間指導で安全確認を行い、質問に答える もとの席に着かせ、机上を整理させる 				
まとめ	<p>本時のまとめ</p> <p>次時の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートをもう一度振り返る 次時の準備物等を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を次時の演習につなげる 排泄介護の手順について各自で復習しておくように指示する 	ワークシート	10分	一斉	(2)
評価	<p>(1) 実技をとおして、介護者に必要とされる基本的な身だしなみやコミュニケーションの取り方を身に付けている。【関心・意欲・態度】</p> <p>(2) 要介護者の状態を把握させ、その状況に応じた口腔の清潔方法を選択することができる。【技能・表現】</p>						